

認知症患者ら交流の場に

カフェ「寿限無」1周年

帯広の大江病院

大江病院(帯広、大江平院長)が運営する認知症カフェ「かふえ寿限無(じゅげむ)」が1周年を迎えた。昨年からは同院敷地内のリハビリテーション施設「晴光庵(せいらん)」で月に1回開設され、18日に12回目が行われた。累計で350人が参加するなど地域に定着し、認知症の当事者や家族、医療・介護関係者らでにぎわっている。

茶話会や講座 350人参加

かふえ寿限無は、大江病一年開設。症状に関係なく誰かが認知症で通院する患者でも参加可能で、茶話会や病院関係者によるミニ講座



なごを楽しめる。

「一人で認知症に悩んでいた高齢者が、悩みを共有できる友達を見つけ、参加するたびに穏やかな表情を見せてくれるようになった」(実行委員の大江敏地域連携室長) なく、着実に成果も出ている。

18日は茶話会の後、同院の岩田悠也室長が認知症の薬について分かりやすく説明。市内から参加した及川マサさん(83)は「認知症とは言われていないが、いろいろな人と話ができ、楽しい。健康のことまで分かるので、1回目から毎回来ていると笑顔を見せた。同院は今後、かふえ寿限無を継続的に運営することにも、若年性認知症の人にもよりどころとなる場所にした」としている。

(奥野秀康)

開設から1年を迎えた「かふえ寿限無」。地域にも定着してこる(18日)